

沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチンについて

背景

- 平成 26 年 6 月 沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV13）について、65 歳以上での接種が可能となる、用法・用量の変更が承認された。
- 平成 26 年 10 月 高齢者の肺炎球菌感染症が定期の予防接種の B 類疾病に追加された。
- 平成 27 年 12 月 第 2 回ワクチン分科会ワクチン評価に関する小委員会において、PCV13 を高齢者の肺炎球菌感染症の定期接種として使用することの是非について議論され、PCV13 の評価に必要な科学的知見をできるだけ早期に研究班等で収集した上で、実施する可能性のある施策について、費用対効果等の分析・評価を実施することとされた。（参考資料 5）

PCV13 の定期接種化の検討について

- PCV13 を高齢者の肺炎球菌感染症の定期接種として使用することの是非については、第 2 回ワクチン評価に関する小委員会において、下記の科学的知見を研究班等で収集することとされた。
 - 成人市中発症肺炎などの発生頻度、血清型の分布について
 - 免疫原性及びその持続性について
 - 肺炎診療にかかる医療費について
 - QOL 評価の指標について
- これらの知見については、引き続き以下の研究班等において収集を継続し、実施する可能性のある施策について分析・評価が可能となった段階で、PCV13 の定期接種化について改めて検討する。
 - 研究課題名：『ワクチンによって予防可能な疾病のサーベイランス強化と新規ワクチンの創出等に関する研究』

研究代表者：大石和徳

研究実施期間：平成 27 年 4 月から平成 30 年 3 月まで
 - 研究課題名：『肺炎球菌ワクチンの費用対効果等についての社会の立場からの評価研究』

研究代表者：池田俊也

研究実施期間：平成 29 年 4 月から平成 32 年 3 月まで